

Audit Analytics の適用例 不正検知モデル

AI が過去の訂正事例との類似度を評価

15 年以上の公表されている不適切な会計処理事例等を AI に学習させ、それらの事例との類似度をスコアとして出力します。これにより、不正の兆候の有無について過去の事例と多角的に照らし合わせて評価し、早期の不正兆候検知を支援します。このモデルに関して、有限責任監査法人トーマツは 2023 年 1 月に特許を取得しています。

Audit Analytics とは、企業の財務・非財務データを分析・可視化することで、効率的かつ効果的な監査を実現する有限責任監査法人トーマツ（トーマツ）の先進的なデータアナリティクス手法です。トーマツの被監査会社の監査において、AI による不正検知モデルを導入した場合にどのような分析を行っているかを紹介するとともに、実際に導入した被監査会社からどんな声が寄せられたかを紹介します。

1. アナリティクス導入前の事業環境と課題

事業環境	企業側の課題	監査側の課題
<ul style="list-style-type: none">遠隔地にある子会社や孫会社がM&Aにより急増しており、それらの会社と親会社との間で十分なコミュニケーションがとれていない	<ul style="list-style-type: none">データ分析が、財務数値の予算比あるいは前期比の増減分析に留まっている子会社ごとのビジネスを詳細に理解した上で、環境変化を捉えて適切にモニタリングしていくには人員やノウハウに限界がある	<ul style="list-style-type: none">子会社の規模によらず、不正リスク評価を適切に行いリスクの兆候を把握することが必要不正リスク対応の高度化

2. 被監査会社の監査に導入したアナリティクス：AI による不正検知モデル

分析内容

- 過去の不適切事例と、分析対象子会社の財務諸表を比較し、類似度を AI が評価
- スコアの高い会社について勘定科目や財務指標等の単位で要因分析を実施

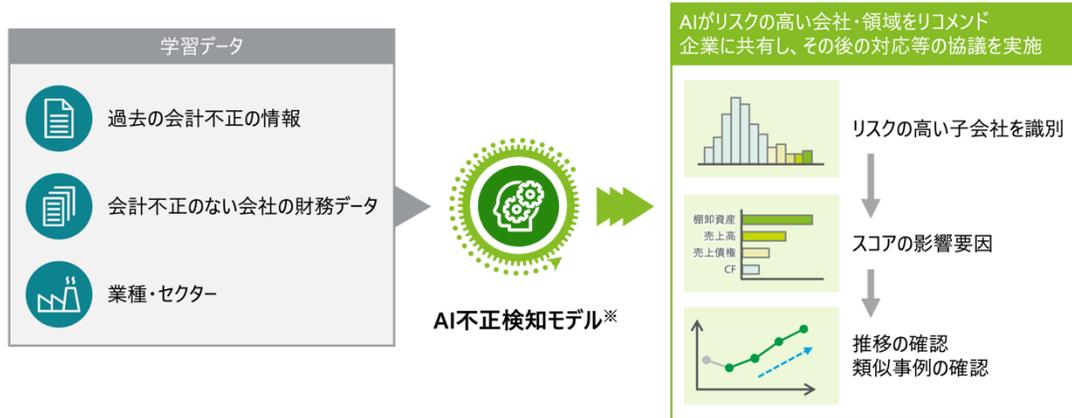
利用データ

- 連結精算表データ、子会社属性データ（業種、所在国） 等

主なメリット

- 全ての子会社の不正リスク評価を過去の不正事例との類似度合いという客観的尺度で実施できる
- 単純な推移分析ではなく AI が過去事例との類似度を評価することで新たな視点や客観性がもてる

不正検知モデルの概要



※：特許取得済（特許番号：第7216854号）

3. アナリティクス導入による被監査会社の監査における変化

■ 監査品質

子会社ごとのリスク評価

- 監査上の重要性が低い子会社も含めて、すべての子会社のリスク評価を効率的に行えるため、リスクの早期識別につながった。
- スコアの高い子会社について内容を確認したところ、会計処理の誤りを発見した。
- 過去の多数の不適切事例とすべての子会社を照らし合わせるのは監査人の人力では難しく、AI を利用したからこそ実現できた。
- 分析結果を監査役や内部監査部と共有し、子会社管理の課題について被監査会社と具体的な意見交換を行えた。

■ 付加価値

子会社管理に関する洞察

- これまで被監査会社で詳細なモニタリングまでは行っていなかった高リスクスコアの子会社について被監査会社と監査人とで議論することができ、子会社の報告数値の確認や管理状況の改善の必要性について共通認識を持つことができた。
- 本件をきっかけにして被監査会社においてデータ分析の検討・導入が進んだことで、これまでの担当者の経験と主観に左右されがちな管理方法の改善につながった。